

Let's Swoop!

叩き出した汚れを「一網打尽」に!

ブラシガンの次に出てきた秘密兵器がバキュームクリーナー。
一見すると業務用掃除に見えますが、
ハルスエアーを吹き出しながら吸引する専用機材!
”叩き出してから吸う”ので、前行程のブラシガンで吸引しやすくなった
汚れを根こそぎキレイにしてしまう「優れもの」なんです!!

吸われてます!
きれいです!!
バイクたちも
根こそぎだあ!!!



■ 姿を表した汚れはいつも簡単にパルスエアーで一気に吸引!



フロアマットは、つぶれていた毛足がフカフカに蘇り、まったく別物のような表面になりました。

縫い目や繊維に沿ってバキュームをかけていきます。繊維に沿うことで繊維の奥に潜り込んだホコリが効率よく叩き出されて吸引されます。

センターコンソールやシートの下もきっちり吸引します。エアコンの吹き出し口もキレイに。

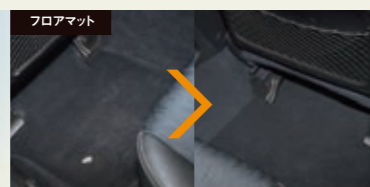
白っぽく見えたフロアカーペットが、シャッキリと締まった黒に戻り、ホコリが吸い出されていることを実感。

■ 場所ごとに吸い出したゴミの量を比較

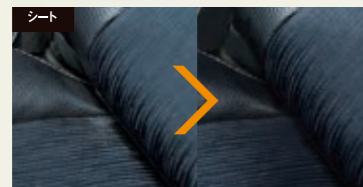
今回は取材と言うことでバキュームクリーナー本体とホースの間にフィルターを挟んで吸い込んだゴミの量を、シート、フロアマット、カーペットと場所ごとに比較しました。クルマってどこが一番汚れているのかな?



清掃前 シート フロア



乗降りがあるため繊維の中に汚れが溜まりやすいようです。車内で食事をする方は食べこぼしがあることも。



フロアはシート下などの奥まった部分があるので掃除機が届かず溜まりやすいところです。



汚れの量はダントツ。サイクロン掃除機などでも吸い出せないガンコなスポットです。



吸い出しが終わったところでAが「本当の「キレイ」って、こういうことですね。安心して子どもを乗せられます。室内の黒い部分が白っぽかったのですが、引き締まった色に戻り、シートの縫い目もハッキリと見えるようになりました。ホコリでくすみ、汚れに埋もれていたんですね。見た目もスッキリとしたので気分爽快です♪」とニコリ。

まだまだ「キレイ」は終わりません「除菌・消臭・抗菌」でキレイが続く。

「ルームリフレッシュクリーニング」のサービスは掃除だけではありません。
除菌・消臭・抗菌、拭き上げと仕上げの作業をしっかり行います。



■ ドアラバー・ステップ

乗り降りでの汚れがちなステップやドアラバーには専用仕上げ剤で拭き上げてツヤがよみがえらせます。ドアを開けたときの見た目が違うので「キレイ」になったことを実感しますとA。



■ 内窓もきれいに

内窓は固く絞った専用ウエスで拭き上げていきます。超極細繊維を採用したウエスが汚れをしっかりと拭き取ってくれます。視界がクリアになるので運転が快適になりました、と喜ぶA。



■ インパネ周りもスッキリ・抗菌

ハンドルやインパネ、メーター周りは専用のウェットワイパーで拭き上げます。ハンドルを握ったAは握ったときにすっきりしているながらも革のしっとり感も復活したことに感動するほどでした。



■ 除菌・消臭

植物性で速乾性のある除菌・消臭液を室内とフロアに噴霧します。掃除と除菌で室内環境がグッと良くなります。それにいやな臭いもサヨナラです。シートの座ったAは、さわやかな香りがほのかにして消臭したことを実感しますね、と。



□ シミ落とし (オプション)

シートなどにシミが残っている場合は液剤を使ってブラシで落とします。シミを広げずに落とすので見た目が劇的に変わります。



出たタタキ

汚れたたちを一気に吸い込む。

こんなにやって
30分で
完成

ルームリフレッシュクリーニング
「一網打尽(いちもうだじん)」
¥4,320 (税込)

【オプション】シミ落とし
1シート(後部座席は2シートとなります)
¥4,320 (税込)

「ルームリフレッシュクリーニング」の実作業時間は、ブラシガンの清掃から除菌・消臭・抗菌などの仕上げまでが30分前後で終了してしまいます。時間がかからないので「オイル交換といっしょに」も大丈夫です。

車内の主なゴミ取り > 天井・シート足元部分のほこりをたたき出し > シート足元部分のほこりをバキューム > ドアラバー、ステップのつや出し仕上げ > 消臭・除菌剤の噴霧 > 窓の拭き上げ > インパネ周りの抗菌



「ルームリフレッシュクリーニング」の実力を検証したのですが、作業が進むにつれ室内が見違えるようにスッキリとしていく様子がビックリしました。まさに室内清掃の決定版だと、取材班も実感。今回の取材で施工していただいたのは新横浜店のメカニック、花坂 若葉さん。「クルマの仕事が好きで好きで！」メカニックの勉強を重ね2級自動車整備士を取得した逸材。女性ならではの繊細な感性も併せ持ち、毎日大好きなサブアル車と向き合っています。